# 基調報告


**報告者**

札幌市立幌南小学校

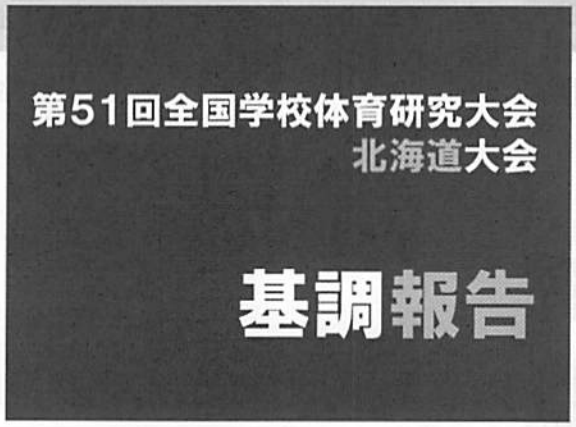
嶋　本　　剛

中島公園　豊平館（札幌市 中央区）

# 基調報告

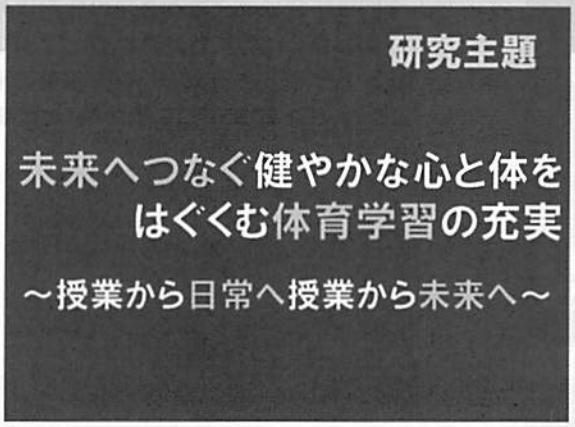
発表者：第51回全校学校体育研究大会北海道大会実行委員会研究部
嶋　本　　剛（札幌市立幌南小学校）

1



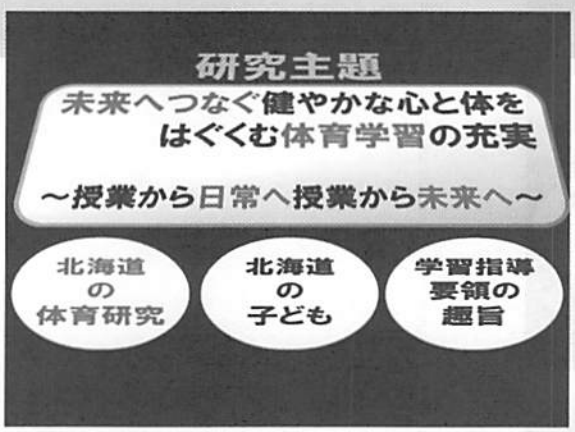

会場の皆様，全国各地から，この北海道の地にご参集いただきありがとうございます。
只今から，第51回全国学校体育研究大会北海道大会実行委員会の研究部を代表して，大会主題及び研究内容につきまして，基調報告をさせていただきます。
私は，札幌市立幌南小学校の嶋本剛と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2



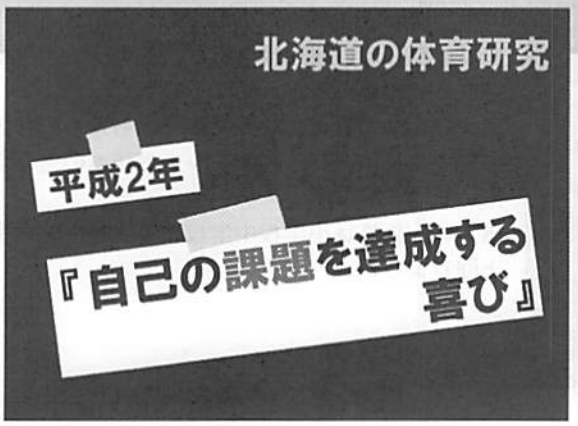

私たちは，本大会の研究主題を『未来へつなぐ健やかな心と体をはぐくむ体育学習の充実』
研究副主題を「授業から日常へ　授業から未来へ」と設定しました。

3



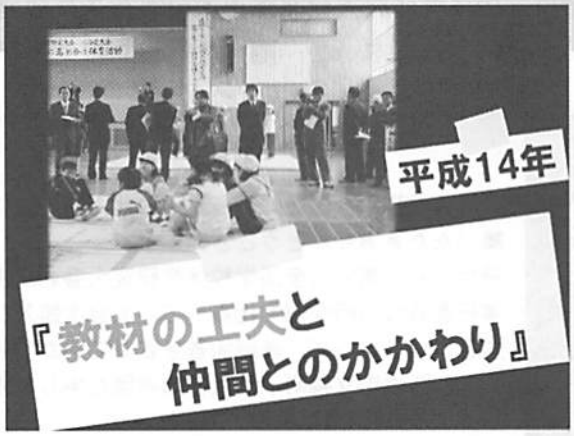

この研究主題は，北海道の体育研究の取組，北海道の子どもの実態，学習指導要領の趣旨の３点を踏まえ，設定したものです。
それではまず，１点目の北海道の体育研究の取組について説明いたします。

4




北海道では，平成2年と平成14年に全国学校体育研究大会を開催しました。平成２年の大会では，子ども自らが自分の能力に応じた課題をもち，その課題に向かって自発的・自主的に考え，工夫し，達成することができる子どもの側に立った学習指導の改善が図られたことが成果でした。

5

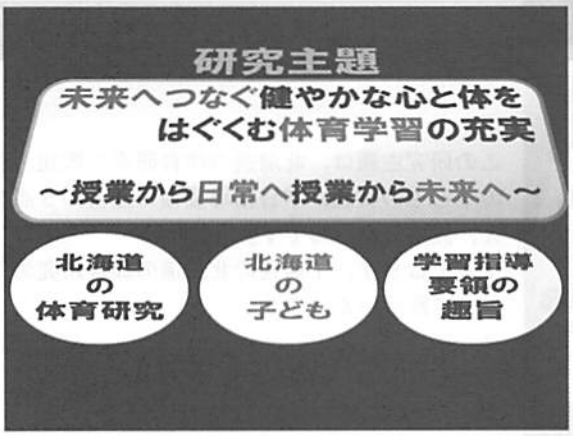



平成14年の大会では，「基礎・基本」となる動きや技能を確実に身に付けることができる教材を工夫し，仲間とのかかわりを通して，それを追求していくことを目指すことで，子どもたちができる喜びを実感することができました。

6

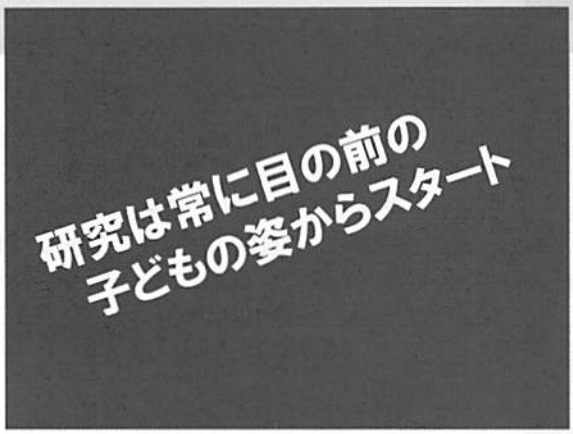
そして，今回の研究では，これまでの北海道の各地域の研究成果に加え，身に付けさせたい確かな体育の力を明確にして，どの子にもそれを確実に獲得させていくことができる指導と評価について提案させていただきます。

7




続いて，２点目の北海道の子どもの現状について説明いたします。

8




これまで私達の研究は常に目の前の子どもの姿からスタートすることを大切にしてきました。
広大な大地で育った北海道のこどもたちの体力・運動能力は高いというイメージをお持ちの方が多いと思います。
確かに，体格は小学校中学校の男女とも全国平均を上回りました。

9

## But. . . .

しかし，

10

## 平成23年度体力・運動能力調査結果

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ボール投げ | 体力合計点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校男子 | 18.11 | 18.98 | 32.76 | 40.04 | | 42.89 | 9.59 | 150.67 | 25.05 | 53.15 |
| 小学校女子 | 17.35 | 16.45 | 36.16 | 37.03 | | 32.39 | 9.86 | 142 | 14.92 | 52.93 |
| 中学校男子 | 30.84 | 26.05 | 40.91 | 48.45 | 408.24 | 78.62 | 8.25 | 192.6 | 21.37 | 39.59 |
| 中学校女子 | 23.87 | 20.54 | 41.77 | 41.27 | 308.87 | 47.1 | 9.32 | 159.52 | 12.82 | 43.53 |

北海道の子どもたちの体力・運動能力については表の結果となっています。
これは平成23年度に北海道教育委員会が独自に実施した道内の児童生徒の体力・運動能力，運動習慣等調査結果です。
22年度の全国平均を上回っていたものは赤色で示されている小学校男子握力と長座体前屈の２種目，小学校女子握力とソフトボール投げの２種目，中学校男子握力とハンドボール投げの２種目のみです。

11

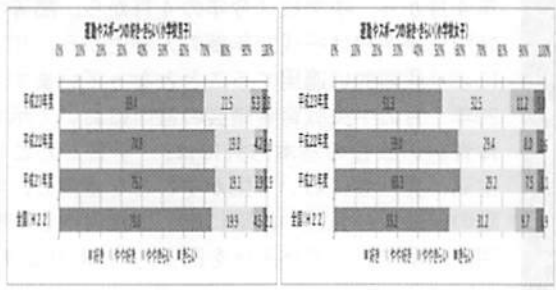
## 全国平均を下回っている

## 体力合計点

体力合計点は小中学校の男女とも平成22年度の全国平均を下回っています。

12

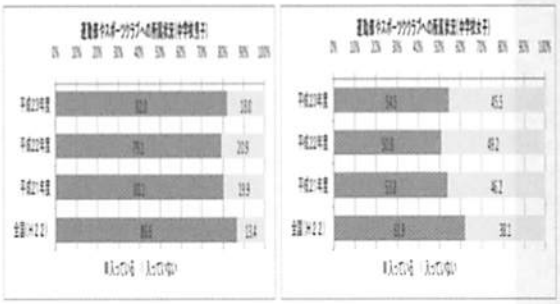
## 運動やスポーツの好き・きらい





このデータは，大会紀要にも掲載しておりますが，小学校の運動やスポーツに関する意識の状況です。
運動やスポーツをすることが「好き」または「やや好き」と回答した割合は，平成22年度の全国平均と比べると，男女とも同程度ですが，平成22年度の北海道の平均と比べると，女子の割合が減少しています。

## 13 運動やスポーツクラブへの加入状況

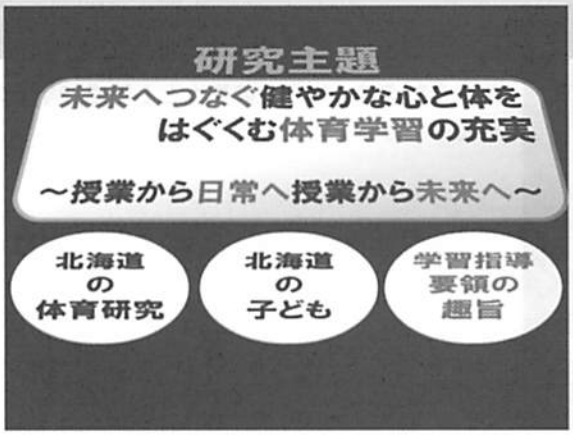


このデータは中学校の運動部やスポーツクラブへの加入状況です。
運動部やスポーツクラブに「入っている」と回答した割合は，22年度の全国平均と比べて，男女とも下回っています。

## 14

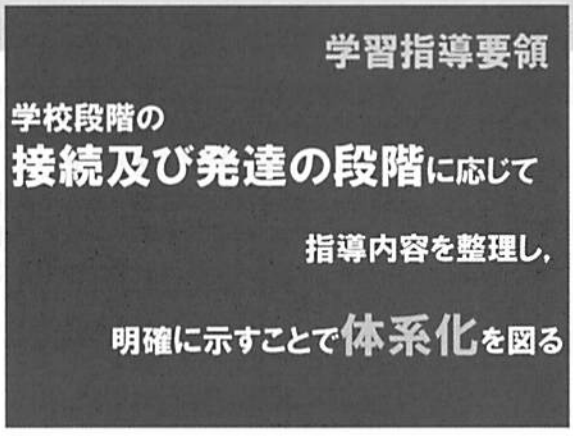
体力テストの数値だけを見て教師が一方的に指導し，数値を向上させることだけを目的にすることは，決して好ましくありません。
子どもが自ら運動を楽しもう，体力を高めようとする意欲をもてるようにすることが重要です。
全ての子どもが行う体育学習の場で，運動やスポーツがもっと好きになるようにし，
運動が日常化していくようにすることが，何よりも大切だと考えています。
それが，生涯スポーツにつながっていくと考えています。

## 15



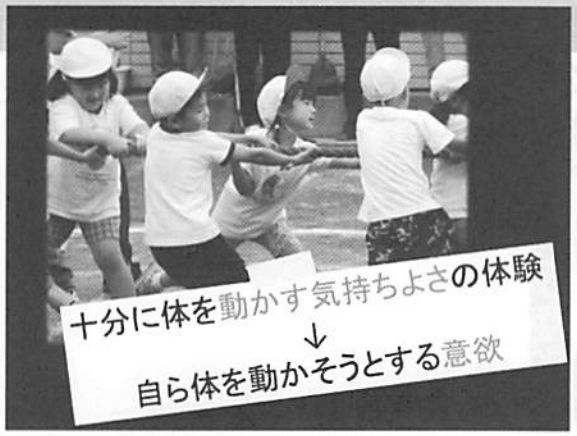

続いて，３点目の学習指導要領の趣旨との関係について説明いたします。

## 16



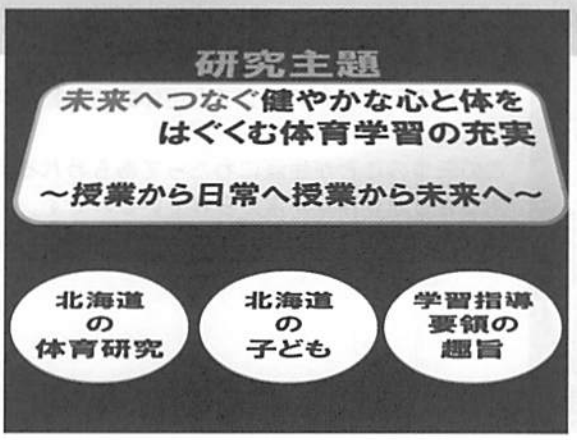

今回，改訂された学習指導要領は，小学校が平成23年４月から，中学校は今年の４月から，高等学校・特別支援学校は平成25年度の入学生から，年次進行により段階的に適用することとなっています。平成20年１月の中央教育審議会の答申において示された，体育科の改善の基本方針には，「学習したことを実生活，実社会において生かすことを重視し，学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し，明確に示すことで体系化を図る。」とあります。

17




また，幼稚園教育要領解説のねらい及び内容の「健康」の領域においては，十分に体を動かす気持ちよさを体験し，自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすることが新たに示されています。
これらのことは，運動することの楽しさや必要性を実感し，生涯スポーツの基礎となる知識・技能や思考力・判断力，態度が身に付くように体育学習の充実を図ることで，生涯にわたって運動・スポーツに親しむ子どもを育成することを目指す北海道の研究と重なるところです。

18




次に，研究主題に込めた私たちの願いについて説明させていただきます。
まず，「未来へつなぐ」ということについてです。

19

スポーツには力があります。
ロンドンオリンピックで活躍するアスリートの姿からたくさんの感動や勇気を私たちはもらいました。
生きる力をもらいました。
スポーツが日本の活力をつくるのです。
スポーツが日本の将来を担う子どもたちを未来へとつないでいくのです。

20

未来へつなぐためには，生涯にわたってスポーツに親しむ資質・能力を育む学校体育に，大きな期待がかけられているのです。
そのため，体育学習では
1）本時だけではなく，次の時間の学習でも夢中になって粘り強く運動に取り組むこと

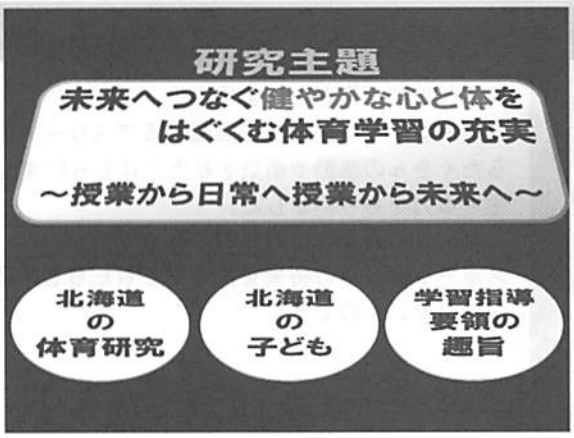
21

2）次の校種や発達の段階でも意欲的に運動に取り組むこと

22

3）次のライフステージでも主体的に運動・スポーツに親しみ続けること。
この三つのことが生涯にわたってあらわれるようにするきっかけ作りが求められているのです。

23




次に健やかな心と体について説明させていただきます。
健やかな心と体については，そのあらわれとして，次の4つの姿を考えました。

24

1）体を動かす気持ちよさを体験し，運動好きで自ら進んで体を動かそうとする姿，

25

自らの学びを創っていく姿

2）運動の必要性や楽しさ，親しみ方や学び方を理解し，自らの学びを創っていく姿，

26

仲間と共に課題を解決していく姿

3）仲間と共に協力したり，教え合ったりして，課題を解決していく姿，

27

達成感や自信を得ていく姿

4）自他のよさを生かしながら運動に粘り強く取り組み，達成感や自信を得ていく姿です。
このような姿が明日の授業でも随所に見られることと思います。

28

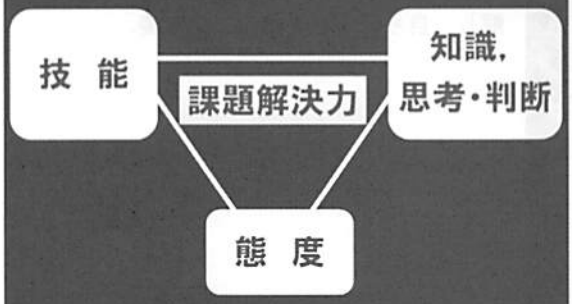
目指す子ども像

生涯にわたって
生き生きと運動・スポーツに
親しむ子ども

そこで，私たちは，目指す子ども像である「生涯にわたって生き生きと運動・スポーツに親しむ子ども」に迫るためには，身に付けさせたい確かな体育の力を明確にする必要があると考えました。

29

## 確かな体育の力




今回の研究では，学習指導要領に指導内容として明確化された「技能」「態度」「知識，思考・判断」の３つを確かな体育の力としておさえております。そして，この三つの力をバランスよく育みつつ，課題の解決に向けて，必要な思考・判断などの課題解決力を，特に重視しました。

30

## 研究仮説

**生涯スポーツにつながる教材の開発・工夫及び，**

**協同的，課題解決的に取り組む学習過程を構築し，**

**指導と評価の充実を図ることで，**

**確かな体育の力をはぐくむことができる**

私達は，子どもの側に立って次のような研究仮説をたてました。それは，生涯スポーツにつながる教材の開発・工夫及び，協同的，課題解決的に取り組む学習過程を構築し，指導と評価の充実を図ることで，確かな体育の力をはぐくむことができるということです。

31

## 3つの視点

**視点1　生涯スポーツにつながる教材の開発・工夫**

**視点2　協同的，課題解決的に取り組む学習過程の構築**

**視点3　確かな学力を保障する指導と評価の充実**

そこで，確かな体育の力をはぐくむ手だてとして３つの視点をもって授業実践を進めてきました。

32

## 研究視点　1

**生涯スポーツにつながる教材の開発・工夫**

視点１は生涯スポーツにつながる教材の開発・工夫です。

33

◆身に付けさせたい動きや技能の明確化

◆子どもの実態に応じた教材の開発・工夫

◆運動との出合いや場の工夫

◆生涯スポーツへの視点

教材の開発・工夫のためには，次の４つのポイントが大切だと考えています。

34

◆身に付けさせたい動きや技能の明確化

具体例について，体つくり運動「ダブルダッチ」の実践を通して説明します。
「ダブルダッチ」は，２本同時に回るロープに入って跳び続けて抜けるところに楽しさがあります。楽しむためには，中に入るタイミングをつかませること。一定のリズムで跳び続けられるようにすることが技能のポイントになります。

35

◆子どもの実態に応じた教材の開発・工夫

２色のロープ

技能のポイントをつかませる教材の開発・工夫の例について説明します。２本のロープがあることで，子どもは混乱します。そこで，２本のロープを色分けして，タイミングを図りやすいようにしました。

36

◆子どもの実態に応じた教材の開発・工夫

ロープの動きが見える

また，冬の間，水道管が凍結しないようにするための発泡スチロールをロープの代わりにしました。回転スピードを遅くしてロープの軌跡を見えやすくすることによって，中に入るタイミングをつかめるようにしました。

37

◆運動との出合いや場の工夫

この学習に入る時に，子どもにあこがれや目的意識を強くもたせるように，モデルとなる VTR を見せました。

38

◆生涯スポーツへの視点

仲間と協力しながら，中に入るタイミングをつかみ，一定のリズムで連続して跳べるようになった喜びから，休み時間も遊ぶ姿が見られました。
授業時間だけではなく，休み時間や放課後など，自分の生活の中でもやりたいと思えるような教材の開発・工夫が大切だと改めて実感しました。

39

育成したい力の
系統性

授業から日常へ，授業から未来へとつながっていくようにするために，育成したい力の系統性をしっかりと押さえた教材の開発と工夫を重視し，今大会の指導案にも位置付けました。

40

研究視点　2

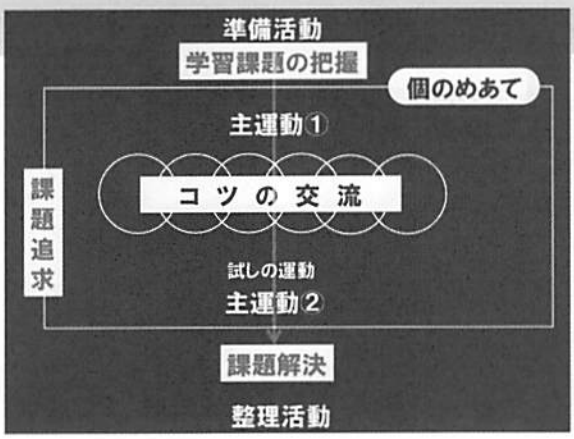
協同的，課題解決的に
取り組む学習過程の構築

視点 2 は協同的，課題解決的に取り組む学習過程の構築です。

41

課題解決的に取り組む学習の構築とは課題把握，課題追求，課題解決からなります。

42




共通の学習課題に対して，運動のコツを探ろうとする問題意識をもったり，自らの興味や能力に合った課題を設定したりして，仲間と動きを見合ったり教え合ったり，コツを見付けながら追求します。そして，それぞれが追求したものを，全体やグループで，交流し，解決できるようにすることで，「分かったことを試してみたらできた」「みんなのおかげでできた」「勝てた」と動きを通して，それぞれの課題を解決し，成就感や達成感を味わうことができるようにしていきます。

43

学習のスタートにあたっては，
「自分にもできそう」「おもしろうそう」「挑戦してみよう」など，子どもの心を動かすように単元や一時間ごとの授業の導入を工夫することが大切です。その上で，動きを試すことを通して，チームや個人の課題をもてるようにしました。

44

課題追求では，きまりやルールなどの条件を変化させたり，活動場面を限定したりするなどしてコツを追求できるようにしました。

45

## ◆課題解決

課題解決では，学級全体やチーム，共通のめあてをもつグループで，作戦や動き方のコツなどを交流しながら，動きを通して，課題を解決できるようにしました。

46

## 協同的な学びによる思考力・コミュニケーション能力の高まり

この過程では仲間と交流をして解決の糸口をつかむ，協同的な学びを大切にしました。
協同的な学びにより，思考力やコミュニケーション能力，

47

## 協同的な学びによる他者を理解する心や思いやりの心，感動する心の育ち

他者を理解する心や思いやりの心，感動する心

48

## 協同的な学びによる共に高め，追求し，尊重し合っていこうとする意欲や態度の育ち

共に高め，追求し，尊重し合っていこうとする意欲や態度を育てることができました。

49

研究視点 3

確かな学力を保障する
指導と評価の充実

視点 3 は確かな学力を保障する指導と評価の充実です。

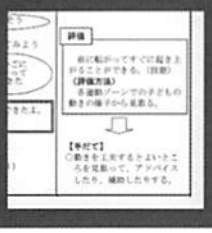
50

適切な評価によって
確かな学力を！！

授業においては，適切な評価によって確かな学力を身に付けさせていくことが重要です。

51

◆評価規準



評価については，国立教育政策研究所の「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料」を基に，内容のまとまりごとの評価規準，単元の評価規準，本時の学習活動に即した評価規準を設定し，指導案に位置付けました。

52

評価方法

◆行動観察
◆発言
◆発表
◆学習カード
◆ネームプレート
◆VTR撮影

そして，一人一人にねらった力を身に付けさせることができたかを見極めるために，行動観察，発言，発表，学習カード，ネームプレート，VTR 撮影などの評価方法を明確にしました。

53

## 向上させる手だて

◆発問，切り返し
◆称賛
◆助言
◆補助や示範
◆活動の場や情報の提供

同時に，一人一人が確かな体育の力を身に付けたり，意欲を向上させたりできるようにするための手だてである
教師の具体的な指導の手だても指導案に明記しました。

54

授業者の声を聞いてください。
交流でつかんだ素早い動きを意識するように声をかけています。良い動きをしている子を積極的に称賛しています。一人一人が力を身に付けたり，意欲を向上させる教師の有効な手だての一つです。

55

運動したい！！

見取ることだけに集中するのではなく，幼児児童生徒が運動する喜びを感じ，ずっと運動したいという気持ちを高めていくことが重要です。

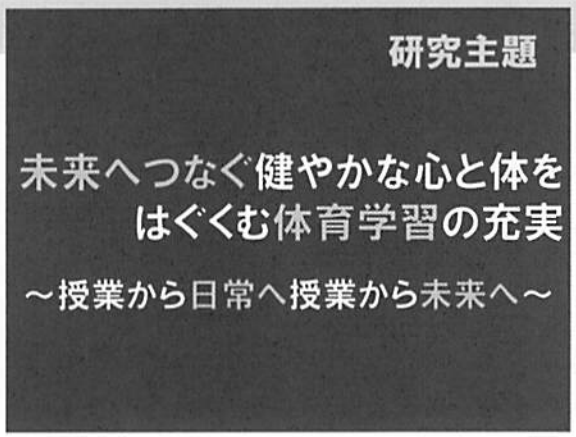
56

北海道プラスワン
このキャッチフレーズには
常に新しいものに取り組もうという，私たち北海道の体育研究者の心意気が込められています。

57

平成2年と平成14年に開催した全国学校体育研究大会北海道大会，日本各地における全国学校体育研究大会の成果を踏まえ，北海道から体育学習の在り方を全国に提案したいと考えました。

58




どうぞ明日の公開保育・公開授業ならびに分科会において，私たちが提案した『未来へつなぐ健やかな心と体をはぐくむ体育学習の充実』について，ご参会の皆様の忌憚のないご指導とご教示をよろしくお願いします。

59

以上で基調報告を終わります。
ご清聴ありがとうございました。